



Title	語学文学会報告
Author(s)	
Citation	語学文学, 34: 53-55
Issue Date	1996
URL	<a href="http://s-ir.sap.hokkyodai.ac.jp/dspace/handle/123456789/8365">http://s-ir.sap.hokkyodai.ac.jp/dspace/handle/123456789/8365</a>
Rights	本文ファイルはNIIから提供されたものである。

# 語学文学会報告

## 分校研究短信

### ○会員の異動

田中 弘

平7・4・1 函館校新任  
平7・4・30 逝去

### ○語学文学会文学散歩

平成七年十一月九日(木) 午後一時から約四時間、札幌校教官の案内で小樽市立文学館を中心に文学散歩を実施した。

### ○語学文学会総会

文学散歩終了後、「ゆらら」で午後六時から総会を開いた。主な議事は次の通り。

- 1 学会代表に瀧沼誠二(岩見沢校)を選出
- 2 『語学文学』第三十四号の編集方針
- 3 その他

総会の後、恒例の懇親会が行われた。

### ○語学文学会学術研究発表会

学科連絡協議会に合わせ、十一月十日(金)に札幌校国語国文演習室で第十八回の学術研究発表会及び記念講演が行われた。題目は次の通り。

- 1 世継物語の枕草子受容法について 札幌校 中島和歌子
  - 2 国語科授業分析―『流れ橋』でどんな力が育つか― 旭川校 池澤 稔
- 記念講演「継続中」と『普請中』―漱石、鷗外の小景―  
函館校 安東 璋二

### ○北海道教育大学国語教育学会(札幌校)

- 1 第三十回全道国語教育研究大会の開催 平7・11・18(土)  
場所：ホテルノーステイー

○研究主題「学ぶ側に立つ教材化」

○フォーラム「学び手の問題意識の連続と教材化」

- |       |       |
|-------|-------|
| 中央小   | 渡辺 知樹 |
| 中央中   | 植村 敏視 |
| 南陵高   | 辻 徹   |
| 札幌学院大 | 小林 好和 |
| 文部省   | 安藤 修平 |

- 2 月例研究会、夏・冬の学習会の開催

### ○北海道教育大学函館国語会

・平成七年度研究発表大会の開催 平成七年十一月二十五日(土)

○研究発表(十時～十二時)

- 一、単元学習の中で 函館・千代ヶ岱小 宇佐美雅司

展開される評価活動

- 二、グループを活用した群読の授業 関根由紀子

(司 会) 函館・桔梗中 大川富美夫

○記念撮影・昼食(十二時～十三時)

○講演(十三時～十四時)

漱石の時間―かたづけかぬ意識について― 函館校・安東 璋二

○シンポジウム（十四時十分～十六時三十分）

いきいきと表現する子供を求めて

（提言者）七飯・七重小 元木いづみ

函館・旭岡中 杉村 勇子

函館・北高校 小森 謙二

（司 会）函館・附属養護 高嶋 すみ

・「会報」第四十一号の発行

・『函館国語』第十一号の発行

研究発表会終了後、十八時三十分より会場をロイヤル柏木に移し、「安東璋二先生御退官・出版記念祝賀会」が、既に退職なさった国語会発足初期の方から、この三月に卒業した諸君まで、百五十名に及ぶ参加者を得て、盛大に行われた。

○北海道教育大学旭川校国語国文学会

平成七年度、第十一回研究発表大会を次のように開催した。

・日時 平成七年十一月十一日（土）午前十時より午後四時。

・場所 上川教育研修センター（旭川市六条四丁目）講堂。

・研究発表

1 読書指導の問題点とその考察——読書感想文のあり方を中心  
に——  
旭川校四年 坂田 享子

2 教科書の中の宮澤賢治——「やまなし」で何を教えるか——  
大学院一年 江柄喜美子

3 発想・構想段階における作文指導の工夫  
附属旭川中学校 香川 芳見

4 中学校作文指導についての一考察——レトリックと作文指導  
の接点を求めて——  
旭川市明星中学校 菅原 豊

5 説明的文章の指導実践——「サロマ湖の変化」を通して——  
上川郡鷹栖町北野小学校 上坂 篤

6 島崎藤村「鷺の歌」考  
旭川校 片山 晴夫

・講演

国語科学習で目指す新しい学力観

元・旭川市東陽中学校校長 今井 穰

・懇親会 旭川市三条六丁目「大舟」にて。

・学会月例会——平成五年度より発足した学会月例会は、毎月第二金曜日の夕刻より旭川校内にて開かれ、毎回活発な研究討議が行われている。平成八年一月まで、通算十七回を数えている。

○釧路国語教育学会

第一回 六月三日（土）

年間計画審議及び釧路国語教育研究会設立総会

第二回 六月三十日（金）

附属釧路小学校研究大会

第三回 九月十一日（月）

喜びや楽しさを感じる音読をめざして

釧路市立興津小 羽柴 綾乃

中学校古典教育についての考察

第四回 十月二十日(金)

釧路校附属中 松岡 伸之

第五回 十一月十三日(月)

附属釧路中学校研究大会

教材研究(素材研究)について 釧路校 比良 輝夫

就職クラス三年生の古典の授業

釧路市立北陽高 安田 耕一

第六回 二月五日(月)

音読から朗読へ 釧路市立湖畔小 天野 久絵

「虹の足」の指導 阿寒町立布伏内中 斎藤 優子

尚、十二月九日(土)に釧路国語教育研究会主催の国語教育講演会が、国語教育研究所長藤原宏氏を講師として開催され、続いて釧路校御出身の余市養護学校校長佐藤貞年氏の「博報賞」受賞記念祝賀会が、同研究会・本学会等の協賛で盛大に取り行われた。

○北海道教育大学岩見沢校国語国文研究会(第十九回)

平成七年度研究大会の開催 平成七年八月六日(日)

於 北海道教育大学岩見沢校大会議室  
総合司会 札幌市立もみじ台小学校 香川寛樹

○研究発表

(1)『「てんてこまい」…文集を作りました』

小樽市立稲穂小学校ことばの教室 今村 薫

(2)『主体的に読み取る古典和歌の学習

「古人の思い―万葉・古今・新古今」を題材として』

札幌市立厚別中学校 堀 裕嗣

(3)『作品論から授業実践へ―「かさこじぞう」指導について』

奈井江町立奈井江小学校 本田俊司

○総会 平成六年度活動報告・決算報告 平成七年度予算案審議

○講演 『子ども・若者・教育を考える』 講師 森山軍治郎

○パネル・ディスカッション 「教育実践から」

テーマ『ことばと思考』

司会者 札幌市立上野幌中学校 斎藤昇一

参加者 札幌市立元町中学校 石川 宏

札幌市立八軒西小学校 北山裕規

札幌市立手稲北小学校 壽案弓子

※全道各地から若々しい会員が参集した。研究発表は多岐にわたる内容で充実したものであった。森山氏のユーモアあふれた講演も好評。パネル・ディスカッション後の懇親会は例年を上まわる和気満ちたものとなった。尚、「会報」第十九号は一月に発行された。